




モガムリズマブ（ポテリジオ）療法


点滴の内容

※点滴時間、開始時間は変更になることがあります。

	外観	お薬名	点滴時間	薬の効果
1		ハイドロコトロン	30分	モガムリズマブによるインフュージョンリアクションを軽くする目的で使用します。
2		生理食塩液	30分	
3		モガムリズマブ _____mg	2時間	がん細胞の増殖を抑える薬です。

*終了後、針をさしている部分の炎症を予防する目的で生理食塩液を点滴します。

投薬スケジュール

お薬名	1日目	以降 1週間以上
モガムリズマブ		お休み

*全8回行います

症状や経過に合わせてお休み期間は変わります。左の表の治療を繰り返し行います。



-MEMO-

モガムリズマブは、多くのATL細胞表面に発現しているCCR4というタンパク質に結合することで、細胞を破壊します。

モガムリズマブは単独で行います。他の抗がん剤と組み合わせて使うことはありません。

点滴当日注意していただきたいこと

- 投与してから24時間以内に、発熱、悪寒、吐き気、頭痛、痛み、かゆみ、発疹、咳、力の抜けた感じなどが起こる事があります。（インフュージョン・リアクションと呼びます）症状を軽くするために、抗ヒスタミン薬（当院ではポララミン錠 1錠）と解熱鎮痛剤（当院ではカロナール錠 2錠）をお飲みいただきます。一般的には点滴回数を重ねるごとに、症状は出にくく、軽くなると言われております。



発熱、寒気



頭痛

＊なお、点滴投与直後、息苦しい、めまいがする、胸が痛いなどの症状が起きたら、すぐに医療スタッフにお知らせください。

- 点滴中に異常な痛みを感じたり、点滴部位が腫れてきたり、かゆみやほてりなど不快を感じたら早めに医療スタッフまでお申し出ください。（血管外に点滴が漏れている可能性があります。）
- 点滴中、気分が悪くなったり、なにか気になる症状が現れた場合には早めに医療スタッフまでお申し出ください。



予想される副作用

皮膚障害（後半に出てくる副作用とされています）

皮膚に赤みやかゆみが生じます。症状が重い場合は粘膜に症状が及んだりやけどに近い状態になります。軽度の場合は軟膏などで対応します。急な悪化があるときなどは必ずお申し出ください。

腫瘍崩壊症候群

がん細胞が急激に壊れることで起こる副作用です。体の電解質のバランスや尿酸が上昇し、気持ち悪さ、筋力低下、知覚異常、尿量の減少、腎機能障害などが現れます。初期に症状はあまりありませんが血液検査などを行ってきちんと観察していく必要があります。予防としてアロプリノールなどの尿酸値を下げるお薬を使用することがあります。

白血球の減少・貧血・出血

白血球が減少することがあります。白血球が減少すると病原菌に十分に対抗できず、肺炎などの感染症が起こりやすくなります。日常生活での手洗い、うがい、マスクなどの感染対策が重要です。また、抗がん剤が血液を造る細胞に作用するため、赤血球が減少して貧血になったり、血小板が減少して出血しやすくなることもあります。



肝障害

肝臓の機能が低下する事があります。定期的な検査で観察していきます。上記以外でも副作用が現れたとき（いつもと違うと感じたとき）にはご連絡ください。

公立大学法人 横浜市立大学附属市民総合医療センター
血液内科

電話：045（261）5656（代表）

※ご連絡の際は診療券をお手元にご用意ください。

